

## 編 集 後 記

本誌を創刊するとき、こういう雑誌は、始めるのはやさしく、続けるのが難しいのだ、という意味のことを語り合ったことを思い出します。

第二十号の発刊に際し、いささかの感慨を覚えずにはられません。

二十といえ、人間なら成年に達する時期です。よくここまでやってこれたものだという気がします。ここで気をゆるめないで、前進をつづけたいと思います。

各大学の紀要の類が多すぎる、などという心ない議論を、耳にしないわけではありません。しかし、自分たちで専門雑誌をつづけていくことの意味は、大いにあると思います。実績を以って答えたいと思います。もともと、自己の業績を世に公表することは学問にたずさわる者の責務である云々と、創刊号の後記に記されたような自覚のもとに生まれた、本誌です。さらに関係者一同の努力を結集して、一段と向上を期したい思います。

これまで本誌の経営に犠牲的奉仕を続けられた大宮印刷が都合によって営業を休止されたこと、代って精版印刷が同様の協力を承知されたことを附記して、謝意を表します。

(井手恒雄)

昭和三十五年十二月十五日印刷  
昭和三十五年十二月二十日発行

## 文芸と思想 第二十号

福岡女子大学文学部  
編集者 国文学研究室

代表 井手恒雄

福岡市香住ヶ丘二丁目  
発行者 福岡女子大学文学部

印刷者 篠原雷次郎

福岡市本庄町一ノ三  
印刷所 精版印刷株式会社  
電話 ④〇一五七  
④〇三三一五